修羅場に入った漫画家に手を出してはいけない【三語即興文】

和波智淳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
修羅場に入った漫画家に手を出してはいけない【三語即興文】

【Nコード】
N8217E

【作者名】
和波智淳

【あらすじ】
三語即興文です。お題は『SF』『なろう』『自分の一番嫌いな物』。今度もまた30分で完成してません……。

（前書き）

制限時間３０分の三語即興文です。お題は『ＳＦ』『なろう』『自分の一番嫌いな物』。

３０分以内に書けた分に後から手を加えて完成させました。合計で６時間近くかかっています。

机の上にはただ白いだけの紙があった。

反町貴久（そりまちたかひさ）はかれこれ一時間近くその紙と睨めっくらをしていた。

どうせ何も描けないのなら、せめて落書きでもいいから埋めてやろうか。そんな考えが頭の中をぐるぐる回っていっこうに消えない。だが、そんなことをしても何も進展しないと分かっているから、その考えすらも実行に移せない。こうして、時間だけがだらだらと消費されている。

サークルに提出する原稿の締め切りは十日後に迫っている。そして下書き（ネーム）の提出締め切りは、今日。作業の遅い漫画家というものは世の中に数多く生息しているらしいが、いくら何でも締め切り当日になって、やっと作業を開始する奴は普通、いないと思う。その、常識をとっぱずれて取っ掛かりの遅い稀少な存在が自分だと思うと……全然嬉しくない。むしろ自己嫌悪だ。

こんなふうに切羽詰まらなければ作業に取り掛かることもできない自分が、漫画家になろうなんて夢を描いたのがそもそも間違いだったのだ……そんな思いが頭の中に居座ってどうにも居たたまれない。切羽詰まらなければ何もできない、それは漫画原稿に限った話ではない。大学のレポートだって、今まで何度、提出期限ぎりぎりででっち上げたいい加減な出来の代物で凌いできたことか。いや、提出したならまだましだ。でっち上げることすら面倒で、単位を落とした講義も数限りなくある。レポートではなく、テストで成績を決める授業の場合も、毎回毎回テスト勉強なんてろくにしたことがない。受けて通れば幸運、落とせば仕方なかったと諦めるばかりだ。

思い起こせば自分はいつもそうだった、と貴久は思う。事は大学に限らない、高校でも中学校でも小学校でも、いつも自分は努力が嫌で、その時もっていたわずかな力と運だけで乗り切ってきた。大学に入るまではそれでも何とか無事に済ますことが出来ていた。だ

が、大学に入ってからは、努力なしに出来ることなど本当に限られたものなのだと思い知らされた。自分には才能がある、その才能だけで何とかできると信じていた自分がどんなに愚かしかったのかも。だのに自分は何一つ改めようとしないまま……いや、やめよう。繰り返しても自己嫌悪が酷くなるばかりだ。

　貴久は気を取り直して白いままの紙を見つめ直す。今回の部誌のテーマとしてサークル員に示されたのは「ＳＦ」だった。それ自体は貴久にとっては得手の部類に入る。幼少の頃からロボットやら特撮ヒーローやらにどっぷりはまったオタク脳の力は伊達ではない。現に、ストーリーらしきものは貴久の脳裏で形を取りつつある。ただ……画力の鍛錬を怠っているせいで、どんなロボットを描いたらよいのか、どこにキャラクターを配置したらよいのか、どんなふうにコマを割ったらよいのか、どれほど迷っても決められないというだけで。

　ピンポーン。

　突然の呼び鈴の音が無情にも貴久の集中を打ち破る。その瞬間、彼の背筋にがくがくっと強い震えが走った。高校の時、苦手な数学の試験の時間の終了を告げる鐘の音に覚えたのと同じ戦慄。

　日米両国の血を引く赤毛頭に緑の目、世間一般の日本人に混じればいやが上にも目立つ外見とはいえ、所詮はボロアパート暮らしのオタク大学生、彼女もいない反町くんには、自宅への訪問者の心当たりなどない。どうせ新聞の勧誘か怪しい団体に決まってる、と、仕事を妨げられた怒りも込めて、徹底的に無視することにする。……だが。

　ピンポーン。貴久が鉛筆を持って、再び紙に向き合ったところを狙うかのように再び呼び鈴の音。しかも、玄関の扉の向こうから何やらごそごそと気配がして。

「あれ？　おかしいなぁ、今ならいると思ったのに……」

　扉越しの声はくぐもっていたが、確かに聞き覚えのあるものに違いない。その声に続けて、三度目、ピンポーン。奇妙に尾を引く呼

び鈴の音がだんだん小さくなって消えた後も、うーん、おかしいなぁ、寝てるのかな？　などという独り言とともに玄関前の気配は去らない。
……貴久は、ここ数日のストレスからくる睡眠不足で血走った目をアパートの玄関へと向けた。
やにわに貴久は鉛筆を机の上に叩きつけ、居間と廊下兼台所に散らかるゴミの山の数々を大股に躍り越え、玄関の鍵とノブをほぼ同時に捻るなり全力で扉を開け放って怒鳴り散らした。
「やかましいッ！　うちは宿でも合宿所でもねぇぞッ！！」
「……は？」
同じ学部、同じ学年の友人を飲みに誘いに来ただけだった瀧野実(たきのミノル)くんは、何も悪くないのに突然怒鳴りつけられて、一瞬、本気で頭が真っ白になったという。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8217e/

修羅場に入った漫画家に手を出してはいけない【三語即興文】

2010年10月9日17時37分発行